

〈6〉 工事発注で施主が心得るべきこと②



施主も養生作業などを手伝ってつくり上げた、打ち出し仕上げの鉄筋コンクリート造の集合住宅



生コンの流動性を確認するためのスランプ試験。固い生コンであるほど、高い山ができ、崩れにくい



固い生コンを、ミキサー車からスコップを使って荷下ろしする。固い生コンの打設には、多くの作業員が必要になる



コンクリート工事前に行う勉強会の様子。施主を含め、できるだけ多くの工事関係者に参加してもらい、目標を共有するとともに、各作業の要点や注意点について周知徹底する

わかる！ コンクリート

当連載では、ひび割れのないコンクリートのつくり方を指導する専門家・岩瀬文夫氏が、コンクリートの基礎知識を分かりやすく紹介する。前回に引き続き、強固なコンクリートの工法で建築を発注するに当たって、施主が心得るべき点について解説してもうらった。

手間と費用は不可欠

現在のコンクリート工事において適正な作業を目にするのは、ほとんどありません。適正な作業を行うだけの予算と工期がないのも確かですが、「安く」「早く」という合理性の追求が行き過ぎ、知らないうちに、丁寧さの失われた作

施主は勉強会を通して情報交換

現場の厳しい状況理解を

業が普通になってしまったからです。密度が高く、丈夫で長持ちするコンクリートを作るためには、多くの作業員による丁寧な作業が不可欠であり、その分、予算が増えます。工期に関しても、鉄筋や型枠を通常よりも丁寧かつ強固に組み上げることが必要となることから、これらの作業にかかる日数は長くなります。また型枠の解体後に、セメントの水和結晶の成長を促すための養生を行なうことでも、工期は延びます。そのような状況があるにもかかわらず、「予算と工期は従

共につくり上げる姿勢

来のままで、コンクリートの品質を高めてほしいと建築会社に要求すれば、結局、作業が不足することになります。現在の一般的なコンクリート工事の予算工期は、水の多い柔らかい生コンを型枠の中に流し込み（密度が小さくひび割れが生じやすい）、型枠解体後の養生をしない（表層部に劣化の起点となる無数の傷ができる）という、誤った施工法に基づいたものであることを、施工（発注者）は認識すべきです。

一方、耐久的なコンクリートを実現するため、水の少ない共につくり上げる姿勢。当初計画した予算や工期を増やすのが難しい場合は、それらを建築会社に押し付けるのではなく、とりあえず、後からの変更が難しい「コンクリート工事」には予算を割き、取り替えがきく内装などの工事を安く済ませることを、私は提案しています。

沖縄県のある工業高校の先生が自宅を造った際、実習を兼ねて生徒たちに内装作業を手伝わせたという話を耳にし

ました。そのように、施主は建築会社に任せきりにするのではなく、一緒に建物をつくり上げていく気持ちも必要ではないでしょうか。

私が工事の監理を依頼された時は、コンクリートの勉強会を兼ねて、できるだけ多くの工事関係者に集まってもらう機会を設けるようにしていますが、これは、施主の皆さんにもぜひ取り入れていただきたいと思っています。

そのような場を通じて、予算と工期について、実際の作業に当たる作業員から話を聞くことができれば、施主の皆さんもその厳しさを実感できるのではないかと思います。

（岩瀬文夫）（株）総合コンクリートサービス代表取締役

毎月第2金曜日に掲載

【いわせ ふみお】1947年生まれ。コンクリート主任技士。「コンクリートのひび割れは、正しいつくり方の実践で解消する」という持論の下、全国各地で講習会を開催。主な著書に「ひび割れのないコンクリートのつくり方（日経BP社）」など。株総合コンクリートサービス <http://www.sc-con.com>